

がん看護学演習 I Oncology Nursing I

担当教員	牧野智恵、北山幸枝、坂下智珠子、我妻孝則、北本順子、村上真由美				
実務経験					
開講年次	1年次前期	単位数	2	授業形態	講義・演習
必修・選択	選択	時間数	30		
Keywords	薬物療法、症状マネージメント				
学習目的・目標	《学習目的・目標》 学習目的：がん薬物療法と療養過程のマネージメントについて学び、Evidence based practiceのために必要な知識を習得する。 学習目標： 1. がん薬物療法の効果と有害事象のメカニズムについて理解できる。 2. がん薬物療法中の患者へのEvidence based practiceのために事例を通して、ケアとキュアの融合ができる。 3. がん薬物療法中の患者に生じる粘膜障害の支援を理解する。				
授業計画・内容					
回	内容		授業方法	担当	
1-2	がん薬物療法と予防メカニズム		講義・討議	牧野	
3-4	消化器・呼吸器がん薬物療法と療養過程のマネージメント		講義・討議	坂下・牧野	
大腸がん・胃がん・肺がん患者のEvidence based practiceのための事例分析					
<p>① 大腸がん・胃がん・肺がん；事例から現病歴、病理・画像診断、看護情報などからアセスメントし、必要な医療処置と看護ケアに関する臨床判断を討議する</p>					
5-6	<p>② 専門看護師の立場から治療の意志決定、化学療法中の支持療法、多職種との協働のあり方について造血器腫瘍薬物療法（造血器幹細胞移植を含む）と療養過程のマネージメント</p>				
	<p>① 白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫；事例から現病歴、病理・画像診断、看護情報などからアセスメントし、必要な医療処置と看護ケアに関する臨床判断を討議する</p>				
7-8	<p>② 専門看護師の立場から治療の意志決定、化学療法、緩和ケアのチーム体制との協働のあり方について乳がん・生殖器系がん薬物療法と療養過程のマネージメント</p>				
	<p>① 乳がん・生殖器系がん；事例から現病歴、病理・画像診断、看護情報などからアセスメントし、必要な医療処置と看護ケアに関する臨床判断を討議する</p>				
9-10	<p>② 専門看護師の立場から治療の意志決定、化学療法中の支持療法、緩和ケアのチーム体制との協働のあり方について</p>				
	<p>がん化学療法を受ける患者への粘膜および創の管理</p>				
	<p>・薬物療法における粘膜障害の特徴およびそのケアについて</p>				
10-13	<p>化学療法を受けているがん患者の経済上の問題、および医療・福祉施策について</p>				
14-15	<p>がん化学療法を受ける患者へのマネージメント</p>				
	<p>① 学生のこれまでの看護実践の中から、化学療法を受ける患者・家族への困難な事例について討議し、マネージメントについて理解を深める</p>				
教科書					
参考図書等	<p>・鈴木志津枝、小松浩子 監訳 「がん看護PEPリソース」 医学書院、2013年 ・西条長廣監修；EBMがん化学療法・分子標的治療法、中外医学社、2010年 ・小島美佐子・佐藤麗子監訳；がん看護コアカリキュラム、医学書院、2008年</p>				
評価指標	<p>各セッションの準備状況と学習への取り組み(40%)、事例分析時の発表・質疑応答内容(40%)、レポート(20%)によって評価する。</p>				
関連科目	がん看護学演習II				
教員から学生へのメッセージ	<p>① 事前に配布される事例あるいは講師からの事前課題についてはEvidence based practiceのためのステップに沿ってあらかじめ分析しておくこと。 ② 自らのケア経験も交えて積極的にディスカッションしましょう。</p>				